

専攻科カリキュラムポリシー（教育課程方針）

本校専攻科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身に付けるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。

海洋交通システム学専攻	電子・情報システム工学専攻
1 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができるように	
(1)文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができるように人文科学・社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	
(2)社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができるように技術者倫理や社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	
2 海・船・物流等に係る知識・技術を身に付け、海陸の複合領域で活躍できるように	2 メカトロニクス・ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身に付け、高度な情報化社会に貢献できるように
(1)商船学分野における諸現象の仕組みを理解するために、数学及び物理に関する高度な自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	(1)工学分野における諸現象のしくみを理解するために、数学及び物理に関する高度な自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
(2)船舶運航に関する航海学、運用、主機関並びに補助機関に関する分野の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	(2)工学分野における専門知識を論理的に説明する能力を育成するために、電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
(3)船舶とその運航に関する総合的な分野の理論的な考察をする能力、技術を活用する能力を身に付けるために、特別実験を設け、実験を主とした学修方法により展開する。	(3)電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の工学的な考察をする能力、技術を活用する能力を身に付けるために、特別実験を設け、実験を主とした学修方法により展開する。
3 自然に優しく、人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できるように	3 メカトロニクス、知能システムを設計・構築できるように
(1-1)外国語による文章理解能力を育成するために、実践的な英語科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。	(1-1)外国語による文章理解能力を育成するために、実践的な英語科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
(1-2)論理的な文章を作成する能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。	(1-2)論理的な文章を作成する能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。
(2)個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現する能力を身に付けるために、特別演習と特別実験によるグループワーク系(プロジェクトベース)科目を設け、演習・実験を主とした学修方法により展開する。	(2)個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現する能力を身に付けるために、創造工学演習と特別実験によるグループワーク系(プロジェクトベース)科目を設け、演習・実験を主とした学修方法により展開する。
(3)新規課題へ自主的に取り組む姿勢、研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。	(3)新規課題へ自主的に取り組む姿勢、研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。

成績評価方法に関する方針

これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

- 1.授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平常の学習状況（演習・レポート等）を総合して行うものとする。
- 2.実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
- 3.特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価及び単位認定基準

成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。

優 80点以上 良 66点以上80点未満 可 60点以上66点未満 不可 60点未満